

パキスタンあれこれ (3) ～ 海外出稼ぎとドバイ・シンドローム

パキスタンの人口一人当たりの GDP は 400 ドル強、未熟練労働者の月給は 1,000～3,000 ルピー（約 3,000～9,000 円）程度である。これと地理的要因もあいまって、物質的、金銭的な豊かさにひかれて中東の産油国への出稼ぎ希望者は後を絶たない。産油国では自国の 10 倍稼ぐことも可能である。また産油国側にとっても、もともと人口が少なく労働力が不足していることや、産油国のアラブ人が原油採掘現場、道路・住宅建設、農場での作業等の 3 K 労働を嫌うこともあって需要と供給が合致している。

パキスタンと中東（アラビア半島）との位置関係を地図で確かめてみるとほんの目と鼻の先で、実際にカラチ～ドバイ（UAE）までの距離とカラチ～イスラマバード（パキスタンの首都）はほぼ同じである。宗教も同じイスラム教であり、言葉も多くのインド人、パキスタン人労働者がいることから、言語人口で言えばヒンディー語、ウルドゥ語（話言葉はほとんど同じ）が多数派であり、そういう点では日本に出稼ぎに来るよりもカルチャーショックもなく、問題は少ないと思われる（アラブ人と日本人の人の使い方を比べると、いちがいに言い切れないが.....）

最盛期は過ぎたとはいえ、出稼ぎ労働者の海外からの送金はパキスタンの経済にとってもいまだに重要である。ただ出稼ぎは豊かさをもたらす明るい面ばかりではなく、「ドバイ・シンドローム」と呼ばれる影の部分も合わせ持っている。ここでは「ドバイ」は出稼ぎ先の代表として使われている。まず出稼ぎをするためには普通、エージェントに多額の手数料を払わなければならない、借金漬けになり心理的に不安になる。次に晴れて出稼ぎに行けても、残された家族は一家の大黒柱の不在によって家庭内が荒れたり、送金によって豊かになり浪費癖がついてくる。さらに出稼ぎ者の帰国後はこうした自分の家庭の崩壊に愕然とし、自身も高額所得に慣れすぎて落差のあるパキスタン社会になかなか復帰できない.....

先日、出稼ぎ供給側のパキスタンと受入れ側の産油国 UAE に相前後して短期出張したときに感じたことがある。UAE の通貨はディルハム（DH）で 1 DH=30 円程度、一方パキスタンはルピーで 1 ルピー=3 円程度。したがって、10DH がほぼ 100 ルピーに相当する。日本円に換算すれば同じ 300 円でも、パキスタンで 100 ルピーあればなかなか使い出があるが、UAE の 10DH はすぐに消えてしまう。つまり物価がそれだけ違う、ということだが、出稼ぎ中に高額所得、高額消費に慣れてしまうと、出稼ぎから帰ったときにそのギャップにとまどうのでは、と思う。得たものに対して失ったものの大きさは人それぞれであろうが、いずれにしろなくしてから初めてその大切さに気づく、というのは人間の哀しい性ではある。



パキスタンの果物屋



UAE のパキスタン人労働者



地方都市の街並み



Abu Dhabi の街並み